

シンポジウム「海洋教育から考える“津波・防災”―東南海地震に備えて―」報告

日時:平成 24 年 7 月 8 日(日) 13:00～17:30

場所:豊橋技術科学大学 A-101 講義室 (豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1)

参加者数:約 192 名

共催:東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター・豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター・日本財団

後援:豊橋市・豊橋市教育委員会

平成 24 年 7 月 8 日, 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと当センターの共催で, シンポジウム「海洋教育から考える“津波・防災”―東南海地震に備えて―」が本学にて開催されました。

本シンポジウムは, 地震や津波に対する子どもたちの安全確保や, 東日本大震災をはじめとする被災経験の次世代への継承を検討すること目的とし, 初等・中等教育における海洋教育の中で, 海と人との共生や, 津波防災教育の重要性と教育方法を考える機会としました。このため, 参加者に占める中学校や高校の教員の割合は 17%と多く, 沿岸域での教育現場において津波防災への関心が高いことがわかります。講演では, 東日本大震災での津波被災分析に基づいた防潮堤(ハード)と避難(ソフト)両者の必要性が堺教授(岩手大学)より述べられました。また, 小学校での津波防災海洋教育の実践など, 教育現場での活動事例について藤城校長(田原市立和地小学校)より情報が提供されました。藤城校長は自身で収集した地 元渥美半島の地質・歴史的な情報を分析・研究しており, 愛知県太平洋側における過去の地震・津波の発生についての研究成果と, それらに基づく防災対策が提言されました。寺本教授(玉川大学)は地震体操や津波体操を会場で実技していただき, ユニークで浸透性の高い防災教育の必要性を示していただきました。青木教授(大阪大学, 豊橋技術科学大学客員教授)は, 渥美半島の海岸における長年の調査実績から, 遠州灘における津波防災の現状と課題を整理し, 主にサーファー(レジャー客)への防災対策とその地元地域社会との連携について問題提起をされました。パネルディスカッションでは, 川口研究員(東京大学大学院)による大槌での聞き取り調査について情報が提供されました。その後, 防災教育の進め方, 学校からの避難路や避難場所など, 会場からの様々な質問にパネリストが答えることで議論が深まり, 学校における防災海洋教育の重要性が再確認されました。



堺教授による講演



藤城校長による講演



寺本教授による講演



青木教授による講演



パネルディスカッション



会場の様子